

変化

自分が変化したのか、周りが変化したのか
はたまた、誰も何も変わっていないのか

BOOKS

変化する絵本と音楽

読んで、聴いて、観て。先生たちの人生を
変えた本や音楽や映画をご紹介します [P3](#)



LIFESTYLE

ゆるやかに、確実に

余市にいる時間は、たった3年。だから
今しかできないことをしたほうがいい [P6](#)



BOOK

ミチルとカケル

月は2つの変化を繰り返しています。
その2つとは、「満ちる」と「欠ける」。昨
日と今日では月の見え方が違う。月が
昨日より大きくなっていけば「満ちる」途
中だし、小さくなっていけば「欠ける」
途中です。僕たちは月を数えます。8月
は、満月が8回やってきたってこと。ち
なみに、8月15日は満月です。月はいつ
も形を変えながら満ち欠けを繰り返して
る。大きく見えたり細く見えたり、そして、

新月には見えなくなってしまう。
だけど、月そのものが形
を変えたり、消えてしまっ
りしているんじゃないんだ。月は、いつ
も同じ丸い球。僕たちには形が変わっ
て見えていても、月はいつも丸い。ただ、
光が月のどこに当たっているのかによっ
て、見え方が違うだけなんだ。僕はいつ
も、いつまでたっても僕なんだけど、ど
こに光を当てるかで見え方が違う。月み
たいにね。さて、君はどこに光を当てて
自分を眺めていますか？ 僕たちは、満ち
欠けを繰り返しながら歳を重ねていくん
だぜ。



月の満ちかけ絵本

大枝史郎・文 / 佐藤みき・絵
あすなろ書房 / ¥1,296

LETTER

変わらないことは難しい

ふと、これは「おかしいな」
って思ったことがあった。でも、世間一般的には「おかし
くない」らしい。そのうち、
僕はそのことを「おかしくな
い」って思うようになってしま
った。でもやっぱりたまに「お
かしいな」って思うんだ。こ
の本は、政治的に茶色が強要
されていく世界の物語。世界
は変わらずに多彩なんだけど
ね。最初は茶色が推奨されて、
そのうち茶色以外が禁止され
て、さらには茶色じゃなきゃ
罰せられるようになってい
く。みんながおかしいなって
思っている、気がついたと
きには茶色を強制されてもう
身動きが取れない状態に陥っ
てしまうんだ。怖いけど、集
団でいるとそういうことが起
こりやすい。学校とかもそう。

みんな不自由なのに、みんな
のためにとかさ。「おかしい」
って思ったら、そういう自分
の内側にある言葉や感覚を変
わずに持ち続ける。できれば
言葉にし続けること。変わ
ってしまうことよりも、変わ
らずにいることの
ほうが難しいのか
もしれない。



茶色の朝

フランク パヴロフ・物語 / ヴィンセ
ントギャロ・絵 / 藤本一勇・訳
大月書店 / ¥1,080

BOOK

ポケットに詩を

たった、ひやくっぽっち
の文字の塊が人生を変えてし
まうことってあるんです。僕
は詩集をポケットに入れて持
ち歩いている時期がありました。
なんか今思うとちょっと恥ず
かしいけど、そのときの僕に
は詩が必要だった。詩集は何
度読んでもいつも新鮮に響く
詩が数編あるから飽きません。
いま、この詩集を読んで心に
止まったのは、「一生おなじ
歌を 歌い続けるのは」とい
う詩です。あと、もうひとつあ
るんだけど、それはなんと

く、恥ずかしいか
ら秘密にします。



いそがなくてもいいんだよ

岸田衿子 / 童話屋 / ¥1,350

BOOK

ズーム・アウト&イン

この絵本は、鶏の鶏冠か
ら始まって、終わりには宇宙
にあるボタンとした地球の点
からズームアウトしていく様
子が描かれています。だんだ
ん視野が広がっていく面白さ



と、視点の深さが面白い一冊
です。視点を広く持つことっ
て大事なことで、それば
かりではなくて、その先に広
がっている奥行き/深さを
知ると、今まで見てたものが全
然違うものに見えてきたりし
ます。見つめ続けるって面白
いかも。その原動
力は、好奇心と想
像力です

ZOOM ズーム

イシュトバン・パンニヤイ
復刊ドットコム / ¥1,944

LIFESTYLE



Everyone thinks of changing the world, but no one thinks of changing himself.

文 八 嶽 恭 子

ロシアを代表する文豪、トルストイはこういった。Everyone thinks of changing the world, but no one thinks of changing himself.（誰もが世界を変えたいと思うが、誰も自分自身を変えようとは思わない）

変化と聞いて思い浮かべることはたくさんあると思う。性格？ 環境？ 容姿？ 案外簡単な変化だったり、誰も気がつかない小さな変化だったり？ 哲学においては「生成」の意味で用いられることも多い。生成については何せ哲学だからかなり難解なので興味があれば調べてほしい。

大体の人が身をもって実感していることかもしれないが、人間は変わりたいと願っていてもそう簡単に変えることは難しい。自分の変化について考えに考えることはするが、保守的なところが変化に対して強く抵抗するし、時に大きな喪失を伴うことをよくわかっているから、なにか新しい大きな一歩を踏み出す決断を恐れるからだ。

しかし、思考には限界があるし、そもそも願っただけでは変化しない。つまりそんなことをしていたっていつまでも変わりはない。変化するには行動するしかないのだ。変化するために行動することを、自分自

身で選択するのだ。その先がどうなるかは誰にもわからない。でも必ず、新しい発見があることだろう。

変化したと言っても実はもとの本質が引き出されただけだったりもする。貴方には自分の知らない自分が埋まっているのかもしれない。まあそれも結局は変化してみないとわからないのだけれど。

人はそれぞれだから、一概には言えないかもしれないが、北星余市は貴方に変化をもたらすお手伝いをしてくれる。本質が引き出されたりもする。そんなところだ。

人間は完璧ではない。だからどこか、変化の余地がすべての人に存在している。せっかくだからその余地を最大限使ってしまうのではないか。成長を得るには変化なくしては出来ない。変化を恐れずに成長し続けようとする貴方はきっと誰よりも強い。まだ知らない自分を見つけに行こう。



八 嶽 恭 子 | Kyoko Yakuwa

意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。情に棹させば流される。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。山路を登りながら、こう考えた。とかくに人の世は

LIFESTYLE

毎月一回、変わってる

文 櫻 田 那 美 紀

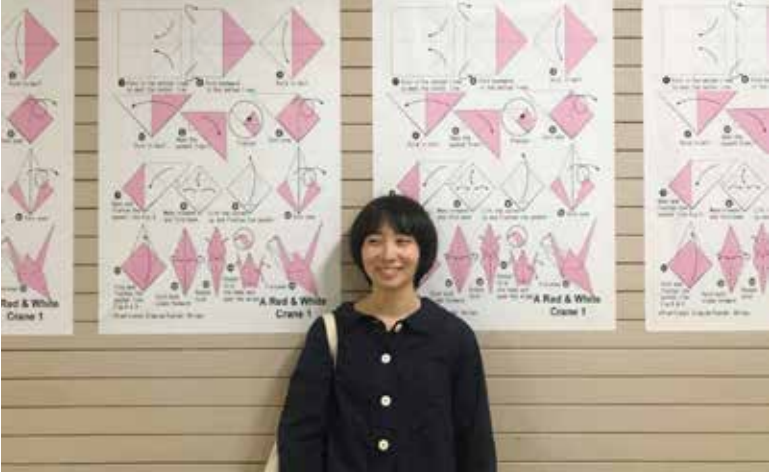
あれは何百回目の生理だったか。月に一度やってくる、重くてしんどい、めんどくさい、なくていいなら来なくていい。そう思っていたあいつが、妙に興味深いものに思えてきたのは。それは辛い2日目を越えた3日目のこと。ぼんやり残る身体の重さを抱えて、私は大学から家への道を歩いていた。下校ラッシュが過ぎた18時頃。下り坂を降り、生け垣を曲がろうとした時、「あれ、変わってる」と思った。毎日通る道なのに、妙にハキハキして見える。ここ一週間頭を悩ませていた心配ごとが、少しどうでもよくなっている。自分の中身をまるごと入れ替えたような感覚。なんなんだ、これは。謎の感覚は、1ヵ月後またやってきた。その時も私は、生理の3日目だった。

この感じをどう説明すればいいのだろう。BGMがクラシックからレゲエに変わる感じというか、彼氏にキレたあとと言い過ぎたことに気づく感じというか、インスタのストーリーに切れ目が入る感じというか。とにかく私は、1ヵ月に1度、切り替わっている。そしてその仕掛け人はどうやらあいつ。生理のようなのだ。これ、何かに似ている。そうして思い出したのが2年前の沖縄旅行だ。もわりと湿気づいた風と、すぐそこに海。見慣れない車のナンバー。こってりとした味つけ。そこは、いつもとは違うにおい、空気、音に、満ち満ちていた。そんな別の感覚に1週間身を委ねた後、住む街に帰り、その見慣れた風景を眺めたあの時も、「あ、変わった」と思った。

旅が、普段と違う感覚に沈む営みであるならば、突然の経血、鈍痛、身体が重くなる生理もまた、私の感覚をひとときの間乗っ取ってくる点で旅に似ている。それは小さく、あまりにもささやかだ。それでも私が生理によって切り替わっているのは、そんな“違う感覚”が、普段の日常の中で澁み、詰まり、引っかかっていた何かを、洗い去ってくれているからかもしれない。だからといって、生理最高！ とはならない。それは相変わらず厄介で、めんどうだ。でも、私の体が勝手に巻き起こしてくれる私の変化を、私は少しだけ面白がり始めている。

櫻田那美紀 | Namiki Kashida

意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。情に棹させば流される。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。山路を登りながら、こう考えた。とかくに人の世は住みにくい。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。



LIFESTYLE



自分が変化したのか
周りが変化したのか
はたまた、誰も何も
変わっていないのか

文 高 崎 麻 美 / 写 真 辻 田 美 穂 子

時と共に人間関係は変化していく。北星余市に入学する前に地元の高校に通っていた私は、そこでバスケット部に所属していた。高校はたいして行く気はなかったけれど、近くの中学校に通う、いわゆる親友と呼べる友達がその学校でバスケットをすると知り、そこに決めた。

でも私は早々に部活に行かなくなった。すると友達は毎日メールをくれた。メールの内容は「明日の部活は〇時からだよ」「週末は〇〇で練習試合だよ」などばかりで、その時の私には少し鬱陶しく感じられた。その上、私が行かざるを得なくなると考えたのか、翌日の試合に使うボールを自宅まで持

ってきたこともあった。それでも、私は試合に行く事はなく、次第に友達からの連絡は途絶えた。そして、私は友達に相談することもなくバスケット部を退部。学校も退学した。退学したことを伝えるメールにも返事がない。毎日、返事が来ないかと、恋人からの連絡を待つかのようにセンター問い合わせを繰り返していた（ガラケーを使ったことある方なら分かりますよね）。

学校を退学して時間だけは余っていた私に、しだいに友達への罪悪感が生まれてきた。後になって考えると、毎日連絡をくれて、わざわざ自宅まで寄って、あんなに親身になってくれる人なんていないだろうな、それだけ大切に思ってくれていたんだなとやっと気がつき謝罪の長文を送った。すると、数日後に返信がきた。しかし、時すでに遅し。詳しく内容は覚えていないが、その返信には怒りと拒絶が詰まっていた記憶がある。その時、初めて「友達」という存在を真剣に考えた。それから数年後、共通の友達を介してその子と会えることになった。あの時の事を謝りたい、もう一度中学の時のように仲良くしたいと思っていたが、それは私の独りよがりだった。その子の中では、その時の話は無かったことになっていて、その子の中にはもう私は存在していないようだった。「仕方ない、人間関係は時間の流れと共に変化するものだ」とは思いながらも、今もふと思い出し、なんともやりきれない気持ちになる。



高崎麻美 | Asami Takasaki

2007年に本校を卒業し、2015年から職員室事務として勤務。地元は東京だが、たまに帰省すると人の多さに疲れ、すぐに余市に帰りたくなる。バスケットが好きで生徒に混じって一緒にやることも。最近ラーメンと入浴剤にハマリだしている。

変化する本と音楽



おおきな木

シェル・シルヴァスタイン(著) / 村上春(訳)

「人の気持は変わるもの、変わっていいんだよ」と言われてホッとしたことがあります。成長とともに、変化していく自分がいるけれど、それは変わらない愛情をもってずっとそばにいる人があるから、安心して変わることができるのだと思うのです。そんな、ことを気づかせてくれる大好きな本です。(中村希絵子)



愛のために

奥田民生

こんな私にも見掛け倒しの流行歌をただ聞き流していた時代がありました。そんなある日テレビに彼が！ 今見返すとどう見てもそうは思えないのですが、「めっちゃカッコいい！」と、彼の顔に対して思ったのです。しかし曲よ！ ここから私は歌詞の深さや遊びの大切さにのめり込んでいくわけです。(本間涼子)



29

奥田民生

こちらは左で紹介した『愛のために』が収録されたアルバムです。このアルバムで初めて「聴き込めば聴きこむほど面白いアルバム」を知ったのです。音楽の聞き込み方を変えてくれた1枚です。私の体を流れている（多分）赤い血の半分は奥田民生です。(本間涼子)



つけたいところに最速で筋肉をつける技術

岡田 隆 (著)

短時間、かつ自重で理想の体を手に入れる。そんな方法がわかりやすく解説されている本。岡田先生の肉体を見れば効果は一目瞭然。モデルがマッチョ29のコアラ小嵐であることもおすすめのポイント。この本で人生が変わるはず。ぜひ読んでみてください。(成田健太郎)



歌舞伎座

ぜひ若いうちに古典に触れて欲しい。東京銀座にある歌舞伎座に足を運んでみてください。毎月20日間ほど開催されていて演目も違う。現在の歌舞伎は若者にも理解できるように色々工夫されています。歌舞伎の方から変化して私達のそばへ近づいてきているよう。私が観劇した演目は「羅生門」。(紺野良子)



スプートニクの恋人

村上春樹

「わかってくれる人だけわかってくれたらいい」とハッキリ思っていた私が「誤解されることは避けようのないことかもしれないけれど、なるべくであればそれを防ぐ努力はしたい」という姿勢をちょっとは持った方が良いのかなと思った作品。(本間涼子)



レッツ！当事者研究 1

べてるしあわせ研究所(著)

昔は精神分裂病、今は統合失調症と呼ばれ、精神科の治療の対象だった症状。浦川ベテルの家を舞台に、原因を自らが研究するというアプローチで、生きづらさから解放されていく。治すのではなく、どのように自分の足を引っ張る状態とつきあっていくのか？ それは疾病に限らず、悩み多き高校生にも生かされるものだと気づかされた一冊。(安河内敏)



エレファント・マン

デヴィッド・リンチ(監督)

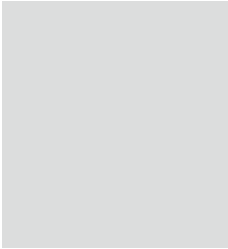
中学生の時に親に連れて行かれた映画。暗くて怖くて、見終わった後の印象が全く良くなかった。中学生の自分には、障害や差別という重いテーマを消化しきれなかったのだ。でも、数年後「あれはやはり映画で扱ってこそ意味がある」と考えられるようになった。(今堀浩)



虚数の情緒—中学生からの全方位独学法

吉田武

中学生以上を対象としているためとても読みやすく、学ぶことが楽しくなる独習書。数学は理論の先にある「美の世界」に本質があり、美に身を委ねる感性が必要である。それは絵画や音楽などの芸術にこそ見いだせる。また、虚数の理解は宗教の世界観とも合致していると感じた。(妹尾克利)



方上記

鴨長明(著)

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。『方丈記』の冒頭にある有名な一節です。昨日と同じように見える川だけど、決して同じ水ではない。人間の体も外見上は昨日と変わらなくても、分子は昨日とは違う。ちゃんとした食べものを食べよう！(吉田裕一)



プーと大人になった僕

マーク・フォースター (監督)

「変化」と聞くと「成長」という言葉を連想します。最近それを感じた作品が「プーと大人になった僕」です。子どもから大人へ。人は色々な経験を経て大人になっていきますが、得るものがあれば、何かを失うこともあります。生きていく中で忘れていってしまう大切なものを思い出させてくれる作品です。(福田綱基)



しゃばけシリーズ

畠中恵(著)

畠中恵のファンタジー時代小説。時代は江戸。廻船業種問屋の跡取り息子と妖（あやかし）たちの周囲で起こる様々な事件。誰も解けない謎を病弱な身体と聡（さと）い頭で解決していく若旦那の成長物語。(鈴木恭子)



ザ・クロマニヨンズ

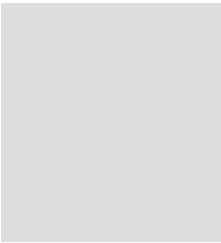
説明なし。聴けばわかります。とにかく聞いてください。おじさん達が本気で歌ってます。本気で聞いてください。オススメの曲は「クロマニオン・ストンプ」。(菅野瑞希)



Changes

David Bowie

「時は私を変えるが、私は時に跡を残せない」という歌詞。YouTubeでは聴かないで。なぜならこの曲が収録されている Hunky Dory には僕のお気に入りの“Queen Bitch”も収録されているから。ぜひCDで。(谷口学)



--

--

--







LIFESTYLE

ゆるやかに、確実に

文・写真 辻田美穂子

「今」は勝手にやってくる。待つこともできないし、ふいにやってきては、ものすごいスピードで通り過ぎていく。「今を生きる」ってよく聞けど、毎朝起きてごはんを食べ、学校や仕事へ行き、あー今日も一日が終わった、と疲れて眠る毎日を繰り返していると、そんなに大したことはしていないように感じる。

職員室にいと、1年生のMちゃんが入ってきた。「暇なんや」と言って、田中先生の前に座る。3年生のかずきも入ってきた。余市での生活がとても退屈だというMちゃんに対してかずきは「今しかできないことをやろう」と言った。かずきは、兵庫から余市にやってきた。1年生の時は、浜で同級生とた



むろしたり、隣街のショッピングセンターで1日ぶらぶらしたりして、なんとなく毎日を過ごしていたそうや。何をしたかは全然覚えていないけど、とにかく毎週1万円ずつなくなる生活。ある日、いつものようにバイトをしていると、「なにやっただろう」と、ふと思った。「バイトなら地元でもできるし、こんなことをするために自分は余市まで来たのか。」なんとなく毎日を過ごし、なんとなく稼いだお金を使う事に対して、突然、自分の中に問いが生まれた。

それからかずきは、「今、余市でしかできないこと」をすこしずつしている。週に1度の選択授業で余市周辺の山へ行ったり、週末になると目と鼻の先にある浜で釣りをしたり。地方からきて下宿生活を送っている生徒が全体の6割を占めるので、学校以外の時間を持て余している子も多い。そんな周りにいる同級生や後輩たちを誘って週末BBQを企画する。みんながおいしそうに食べている姿や、その場を楽しんでいる様子を見ると、とても嬉しくなった。「余市にいる時間は、たった3年。だから今しかできないことをしたほうが、絶対にいい。」そんなことを力説しているが、Mちゃんの反応は薄めだった。Mちゃんが部屋から出て行ったあとにかずきがぼつりと言った。「俺も1年生の時、おなじこと3年生の先輩に言われた。全然ピンとこなかったけど、今3年生になってみてようやくわかった。だから多分、そのうち気づくと思う。」変化って、すぐには起きない。ゆるやかに、でも確実に。



辻田美穂子 | Mihoko Tsujita

大阪出身の写真家。祖母の生まれ故郷である「樺太」のリサーチのため、ちょっと札幌に来てみたら、すっかり居心地よくなつてしまい気づくと北海道6年目。やりたいことがたくさんあって、人生足るか心配。

ほりさんに きいてみよう



Q ほりさん、
どうして先生になったんですか？

A 先生という職業を選んだのは、本当に偶然が重なった結果です。行き当たりばったりで道を選んできたとも言えます。高校2年生の頃には、学校から卒業後の進路を考えと言われていました。「就職するには早い気がする。専門学校か大学に行くのがいいんだろうな」という程度の進路選択の意識でした。一度だけ受けた適性検査で「福祉関係」と判定が出たこと、両親からも「いいんじゃないか」と言われたこと、全く興味がなかったわけではなかったこと、そんな理由で福祉学科に進学しました。しかし大学の授業は福祉に関する法律や計画が中心で、2年生の終わりには「自分には行政として福祉に関わるのはムリだ」と感じ、福祉方面は諦めました。実際に困ってる人と関わりたいと考えていたのです。視覚障害や聴覚障害の友達に対する手伝い(ノートテイクや手話通訳)は楽しさもあり卒業まで続けられたのですが、勉強はだめでした。ただ、せめて教員免許くらいは取って卒業しようという程度で感覚で、教職課程の履修は続けていたので教育実習にも行きました。

教育実習の担当教官は「指導書を書く暇があったら、部活にでも顔を出せ」というちょっと変わった先生でしたが、このスタイルで2週間過ごせたのは良かったと感じています。「取れるなら取っておこう」というくらいの気持ちで行った教育実習でしたが、生徒と一緒に放課後を過ごす楽しい感覚は今でも残っているのです。そして、大学生の時に見学に来たここ北星余市の先生と生徒の表情に、自分の高校時代には経験したことのないものがあると感じました。仕事として「先生」を意識したのは、そんな出会いや経験が続いた頃です。ひとの人生に影響を与える責任感を「重すぎる」と今でも感じていますが、それと同時に、生徒と一緒に喜んだり腹を立てたりといった「感情を共有する楽しさ」も、毎回新鮮に感じています。方向はコロコロ変わりましたが、結果「先生」を選び、今でも続けているのです。

神林 潮

6月8日、強歩遠足があった。自分は50kmを選択。50kmは遠いが、まあ歩けるだろう、そんな軽い気持ちでいた。だが現実はその甘くはなかった。まずは20km先にある銀山生活改善センターを目標に歩いた。少し速めに歩き、なんなく到着。残り30km。大丈夫だろう。そう思っていた。しかし第3関門に着いた時に足に違和感を感じた。ペースが速すぎたのかもしれない。できるだけゆっくり歩こうと自分に言い聞かせた。そして、坂道を歩いていたら急に足が動かなくなった。その瞬間、完全に余裕が無くなった。クラスの人と一緒に歩いていたので、迷惑をかけないようにできる限り歩いたが、ついに立っただけで辛くなった。「何で……」という言葉が無数に浮かんできた。

すると後ろから来た先輩が肩を貸してくれた。罪悪感というか、申し訳ない気持ちでいっぱいだった。何故50kmを選んだのだろうか？ 自分の判断ミスだろうか？ どっちにしろ悔しかった。第5関門へ着いた時にはまともに立つことすらできず、一人の先生から「やめたほうがいい」と言われた。けれどそんなことはプライドが許さない。たとえ足が痛くても、どんなに辛くても、歩くことはできるはずだと思い、歩くことを決めた。そして、先生達に肩を貸してもらい再び歩き出した。午後6時までには次の関門に着かなければいけない、しかしこのままだと間に合わないとも告げられた。それでも歩いた。とにかく歩いた。途中足がすごく痛くて止まることもあったが、先生達の支えもあり、歩き続けることができた。そして、第6関門が見えてきた。そこには先輩達が待っていた。ラスト5分前、足の痛みを耐え、第6関門へ着いた。嬉しかった。

あとは学校に向かうだけ。ここまできたからには、やめる気はなかった。少しずつ歩きついにゴールの学校に着いた。この時の達成感は何ものすごかった。足の痛みにも長く耐えゴールできたのは最後まで支えてくれた先輩や先生達のおかげだ、諦めないということは、必ず成し遂げられるということ。それを実感できた。

早く帰りたい気持ちと、
まだゆっくりしてきたい気持ち

一年研修会
小林久美

この学校に入学して初めての大きな行事。1ヵ月以上経ったというのに未だに誰がクラスメイトなのか分からず、あまり交流できなかったかなと思います。

研修会で最も辛かったのは10kmのミニ強歩。外へ出ず、家の中で引きこもりの生活をしていた子供に対する暴力だと思いました。1人で歩いていたら確実に諦めていたであろう強歩も、大好きな生徒会の人や、仲が良いのかは分からないけどクラスメイトと一緒にだったからこそ完歩できたのかもしれませんが。その安心感から最後には泣いてしまいました。

たくさん歩いて疲れたのに、夜にはレクがありまし

た。嘘だろ、と思ったけど、実際は心のどこかで楽しみにしていたり……。みんな楽しんでいて、準備していた側ではないけれど嬉しかったです。そんな楽しいレクの中でも、辛くも楽しかったのが「団結の樹」でした。わたしはサイドの支えにまわっていました。終わった後で何人かから感想を聞いたけど、みんな大変だったね。おつかれさま。その後、団結の樹を最後に一日を終え、就寝。消灯後もずっと女子トークに付き合わされ、よくは眠れませんでした。

2日目は帰るだけ。1日目の疲れもあってか、正直早く帰りたい気持ちと、まだゆっくりしてきたい気持ち halves でした。朝は生徒会の人たちと散歩に参加したのですが、研修施設前の長い階段の往復。1日目も2日目も全ての気力を吸収されました。研修会とは名ばかりだったけど、楽しかったです。もうあの長い階段の昇降は嫌です、絶対。

INFORMATION

学校見学を随時受け付けています

受験を考えるにあたって気になるのが実際の学校生活。生徒がどんな学校生活を送っているかを実際にご覧いただけます。北星余市高校では、日曜・祝日を除く9:00～17:00の間であれば、基本的にいつでも学校を見学いただけます（例外もありますので必ず事前にお電話でご確認ください）。

夏休みなどの長期休暇や土曜日に見学いただいてもよいですが、見学するなら平日がお勧め。生徒たちの普段の様子が見えるからです。授業の様子、休み時間の過ごし方、寮や下宿での生活など、ありのままの姿をご覧ください。そして、自分がその場にいることをイメージしてみてください。

ご希望の方は、事前に入試担当までご連絡ください。
0135-23-2165（職員室直通）
nyushi@hokusei-y-h.ed.jp

EVENT

ほとんどの方が
下宿も見学しています。

「せっかく北海道まで、せっかく余市まで来たのだから……」と、住む場所となる寮や下宿を訪問される方がほとんどです。学校見学終了後に、下宿見学も希望される場合は、その旨お伝えください。所要時間は、移動も含めて1件につき約30～60分。多い方で3件くらい見学されます（たくさん質問される方、じっくりご覧になりたい方はもう少し時間がかかります）。余市町内の地理感覚や車などの交通手段のない方のために、寮・下宿の管理人さんが学校まで迎えに来てくださる場合もあります。詳しくはお電話でお問い合わせください。

INFORMATION

2019年度も全国で教育講演会・
相談会を開催します。

教育講演・相談会では、各会場とも前半約1時間は北星余市高校の説明を中心に、教育についてお話しします。北星余市の教育理念のみならず、子育てについて大切なことは何かを考える機会にいただければ幸いです。残りの時間は、他の方に聞かれない形で、本校教員が個別に相談をお受けします。お待ちいただく間は、PTAや、PTAOB、会場によっては卒業生がみなさんとお話いたします。

※開催時間は全日程13:30～17:00です。

〈北海道地区〉

- 8月24日 土 札幌市 かでる2.7
- 10月19日 土 札幌市 札幌市教育文化会館
- 10月20日 日 北見市 北見芸術文化ホール
- 10月26日 土 帯広市 帯広市民文化ホール
- 10月26日 土 函館市 サン・リフレ函館

〈東北地区〉

- 11月4日 月・祝 福島県 郡山ビューホテル本館

〈関東地区〉

- 7月27日 土 東京都 ハッシャダイカフェ
- 10月12日 土 東京都 ハッシャダイカフェ
- 11月 2日 土 埼玉県 日本環境マネジメント株式会社
- 11月 3日 日 茨城県 牛久市エスカード生涯学習センター
- 11月30日 土 神奈川県 かながわ県民センター
- 2月 8日 土 東京都 未定
- 3月 7日 土 東京都 未定

〈中部・北陸・関西地区〉

- 7月28日 日 大阪府 エル・おおさか
- 11月13日 日 愛知県 ウインクあいち
- 10月14日 月・祝 大阪府 エル・おおさか
- 12月 1日 日 大阪府 エル・おおさか
- 12月14日 土 和歌山県 未定
- 2月 9日 日 愛知県 ウインクあいち
- 2月11日 火・祝 大阪府 エル・おおさか
- 3月 8日 日 大阪府 エル・おおさか

〈中国・四国・九州地区地区〉

- 11月 9日 土 沖縄県 沖縄県立博物館・美術館
- 11月10日 日 福岡県 アクロス福岡

編集後記

編集し過ぎることなく、できる限りそのままの北星余市高校を伝えられる方法を考えて辿り着いたのが「新聞」です。中学生、高校生、保護者、先生、卒業生、余市町の方々、誰が読んでも楽しめる新聞を目指しています。次号からはもっと生徒たちも巻き込んで作りたい。（佐々木信）

星しんぶん1号目、なんとか完成に至りました。作っている私たちもまだまだ手探り状態です。続けると、きっと北星余市高校の輪郭が見えてくるはず！記事を書くときに自分の高校時代を思い出してみると、あのときやっていたことも、考えていることも、実は今とほとんど変わらないんじゃないかと思います。多分私は17歳から何も変わってない。きっと他の大人もそう。（石田愛実）

